

鹿児島県立屋久島高校

令和7年度

学校評価アンケート結果報告

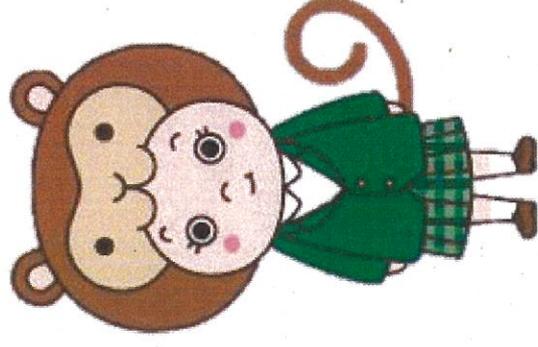
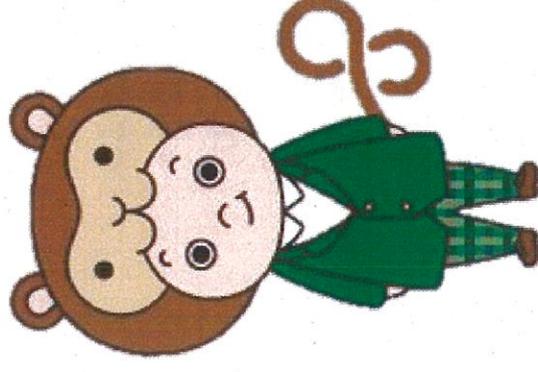
Noto Serif JP

生徒・保護者・職員による意識調査の集計と分析

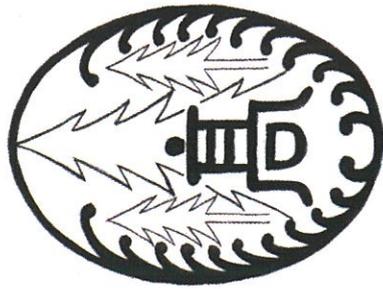
Noto Sans JP

対象：屋久島高校 生徒・保護者・職員

実施年度：令和7年度



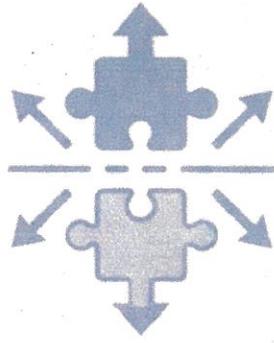
ハイライト：全体満足度は高いが、家庭との「認識のずれ」に課題



高い総合満足度

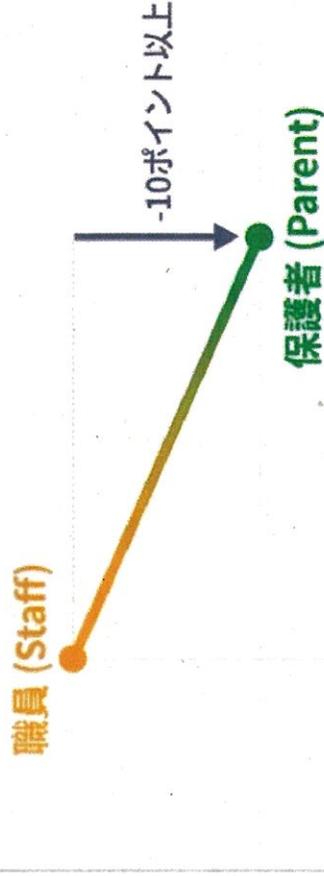
学校全体への満足度は、全属性（生徒・保護者・職員）で83%を超える極めて高い水準を維持しています。特に職員の指導に対するコミットメントは高く評価されています。

83%+



認識のギャップ (Perception Gap)

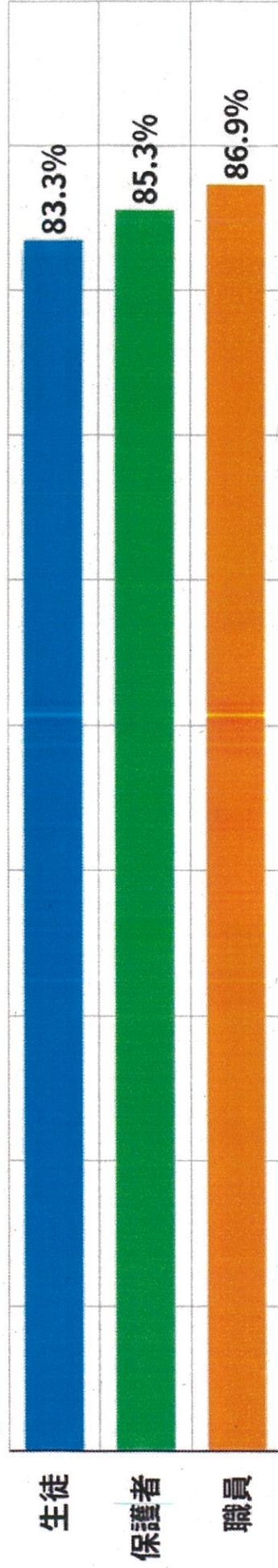
「自宅学習」や「情報発信」などの項目において、職員の自己評価（取り組みへの自信）と、保護者・生徒の実感値に10ポイント以上の乖離が見られます。



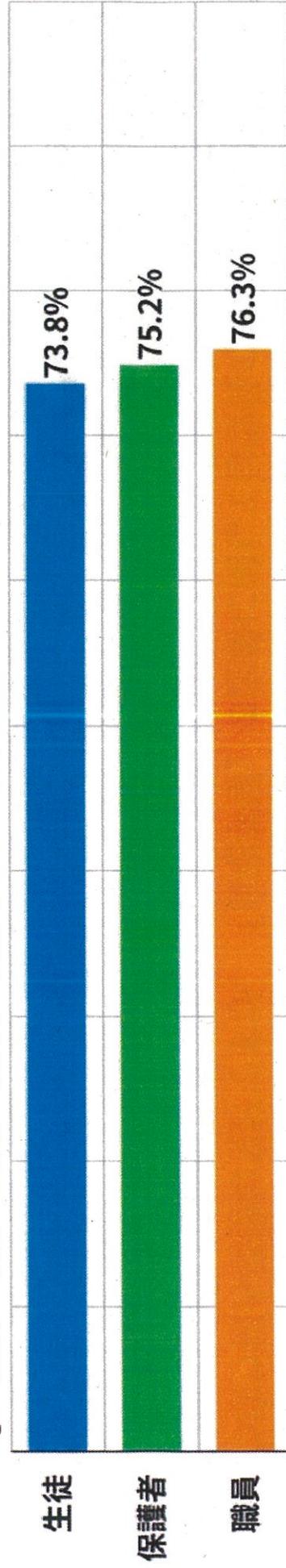
1. 学校への満足度と誇り

入学・赴任してよかったと感じる割合は極めて高く、学校への信頼関係は強固です。

Q1. 入学（赴任）して良かったと思えますか？



Q2. 校訓「敬愛・互譲・協力」を意識していますか？

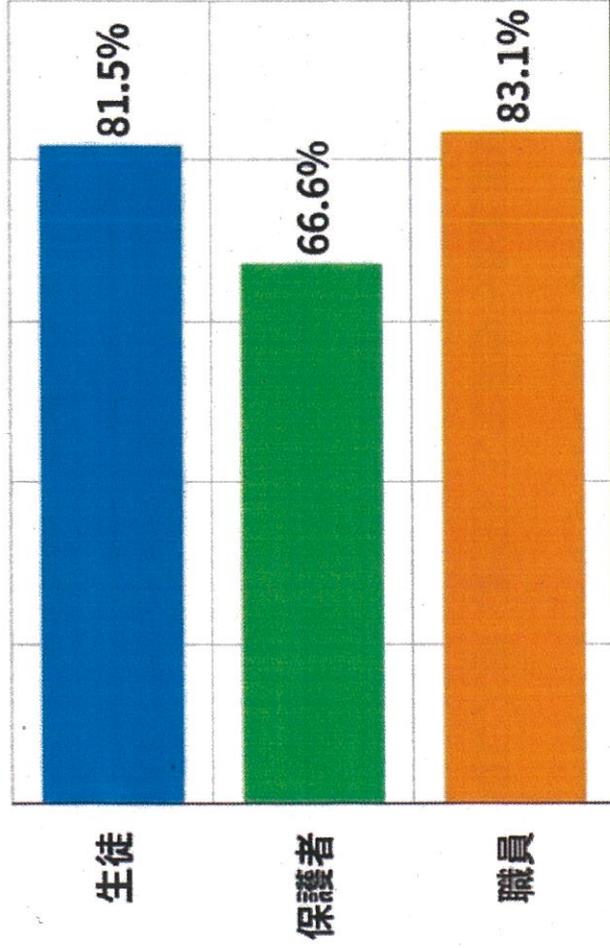


■ 生徒 ■ 保護者 ■ 職員

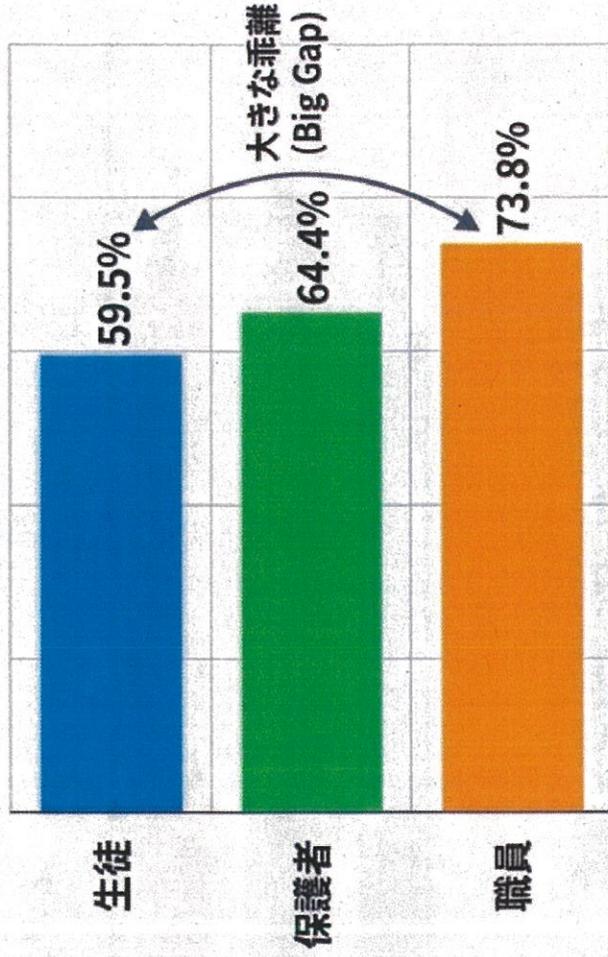
2. 学習への取り組み：授業と家庭学習のギャップ

授業への取り組み姿勢は良好ですが、「自宅学習」の定着に関しては教員の指導意図が生徒の実践に結びついていない現状があります。

Q3. 毎日の授業にしっかり取り組んでいますか？



Q4. 自宅学習は充実していますか？

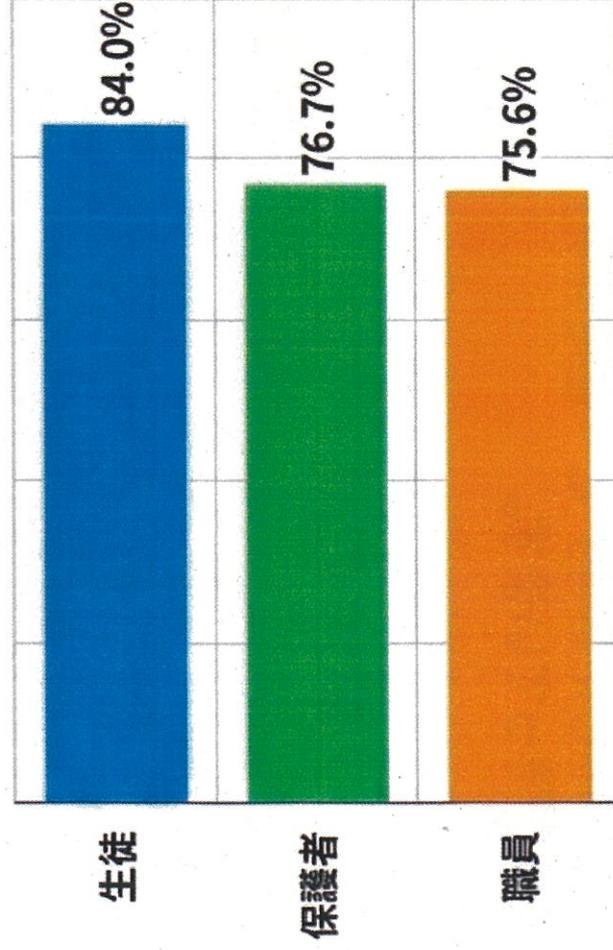


■ 生徒 ■ 保護者 ■ 職員

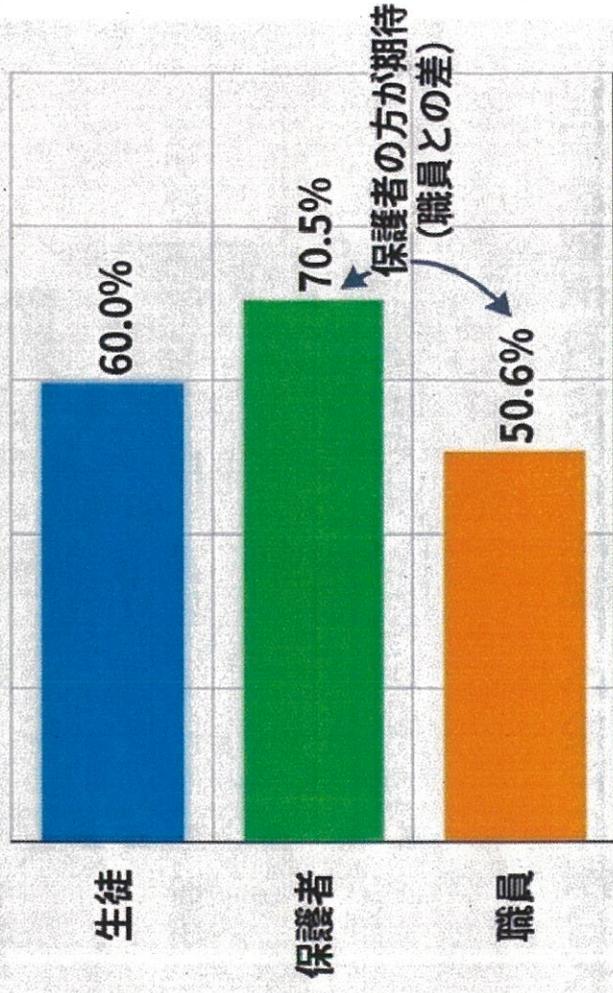
3. ICT利活用：タブレットの定着とツールの活用課題

タブレット端末の活用は生徒主体が進んでいますが、学習支援ツール（スタディサプリ）に関しては、保護者の期待に対し、職員側の活用実感（50.6%）が低い傾向にあります。

Q6. タブレット端末等を授業や探究活動等で活用していますか？



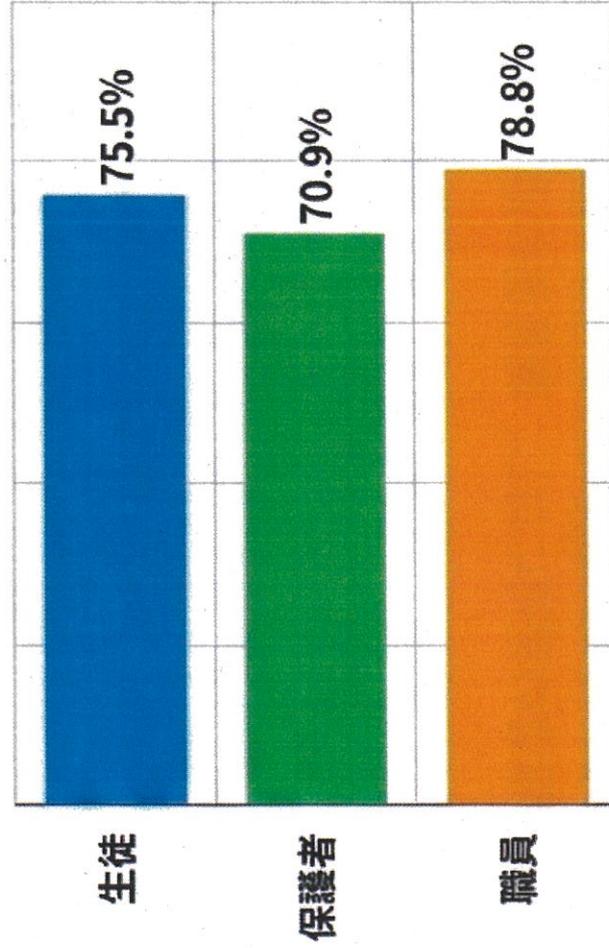
Q7. スタディサプリを学習支援や通信手段等として活用していますか？



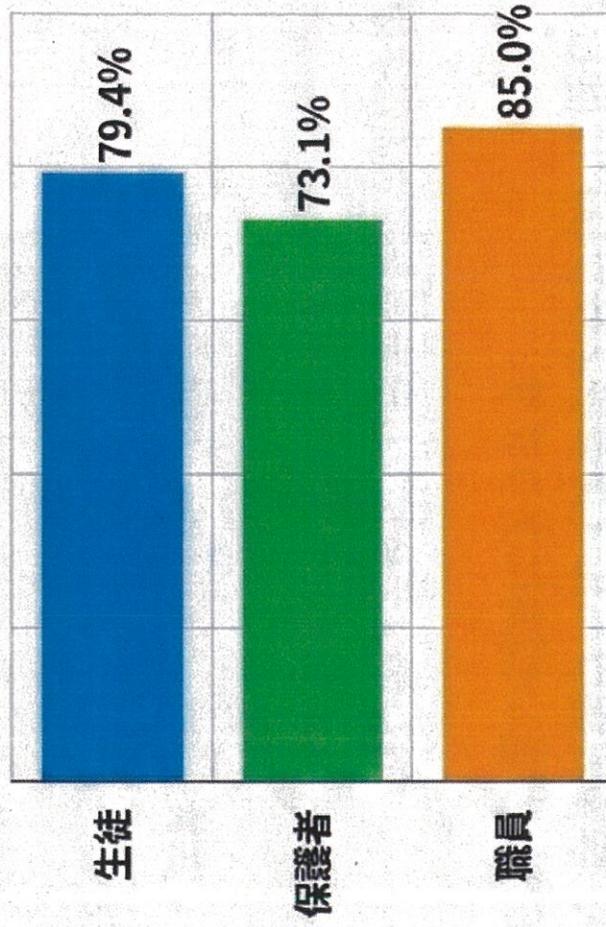
4. 個への対応と進路指導

「個に応じた指導」と「進路実現」は本校の最大の強みであり、職員の85%が支援体制に自信を持っています。

Q8. 個に応じた指導がなされていると感じますか？



Q14. 生徒それぞれの進路希望に合わせた学習支援をしていますか？

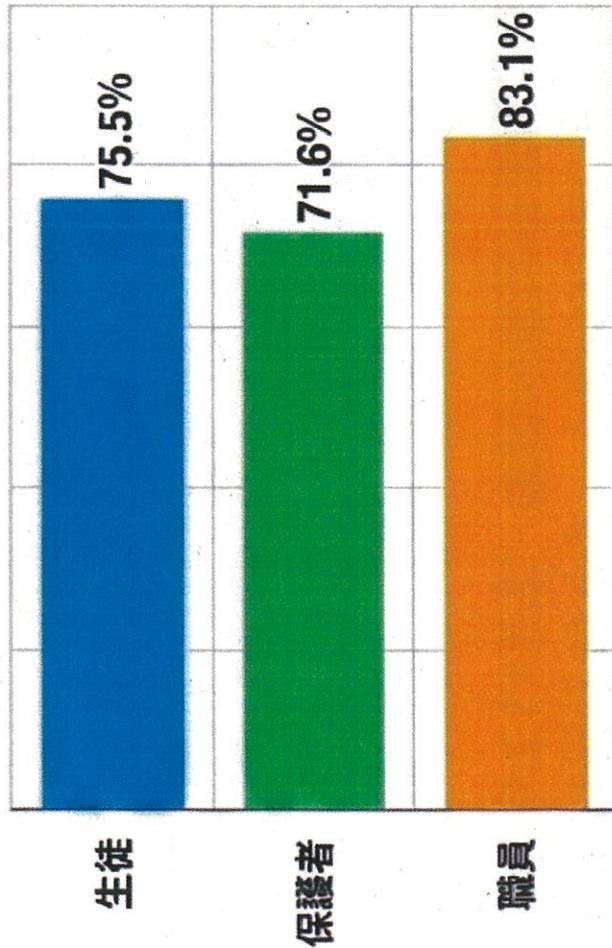


■ 生徒 ■ 保護者 ■ 職員

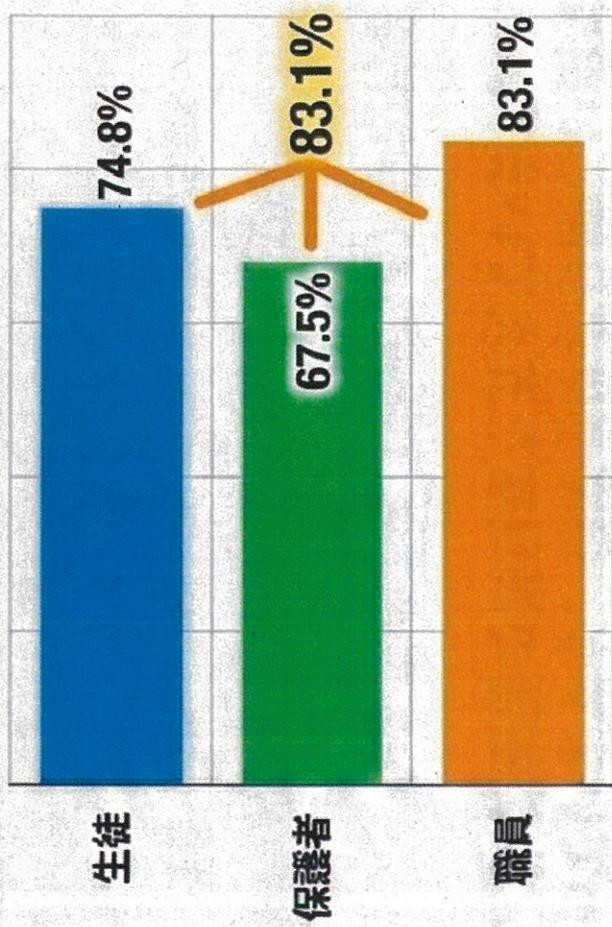
5. 安心・安全な学校生活：いじめ・トラブル対応の温度差

相談しやすい雰囲気は醸成されていますが、いじめやトラブル対応について、職員の自信(83.1%) ほどには保護者が安心できていない(67.5%) 可能性があります。

Q9. 相談しやすい雰囲気がありますか？



Q13. トラブルやいじめ等に対して、
しっかり取り組んでいますか？

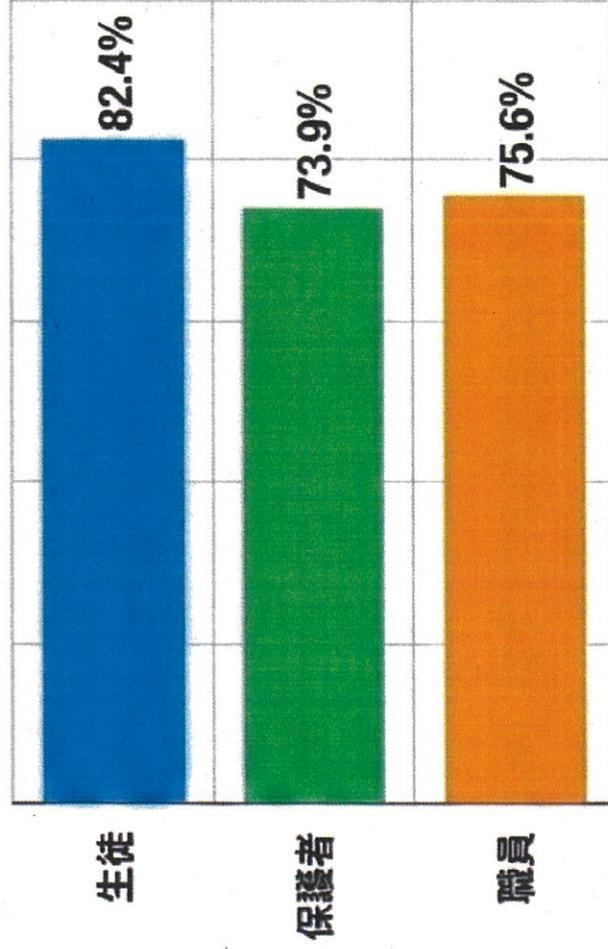


■ 生徒 ■ 保護者 ■ 職員

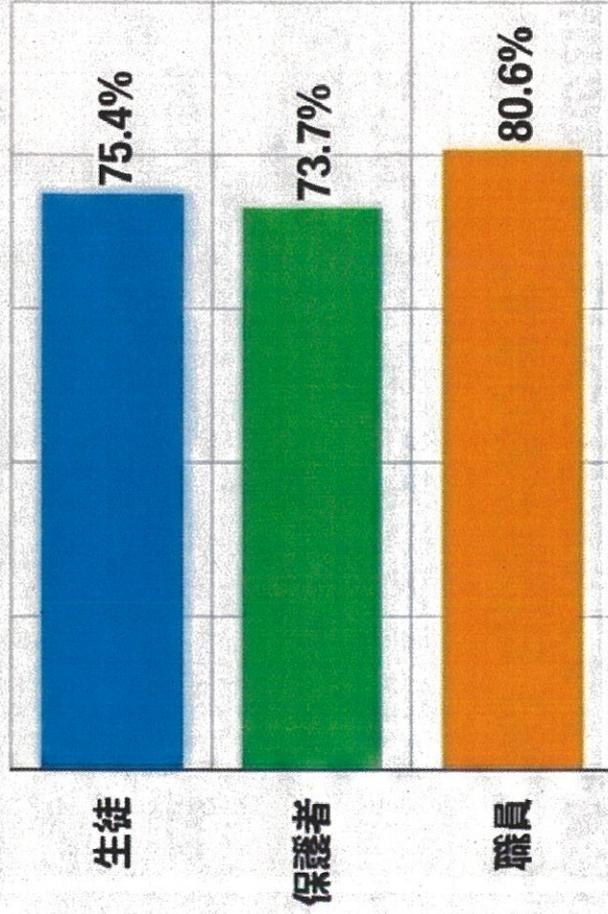
6. 規律と社会性：生徒の自己評価と保護者の視点

生徒は自身のマナーや規律に高い自信を持っていますが、保護者はより厳しい目で見守っています。学校行事は充実が高く、生徒生活の満足度を支えています。

Q5. 挨拶・服装・礼儀・マナーは
しっかりできていますか？



Q12. 特色ある（魅力ある）学校行事
がありますか？

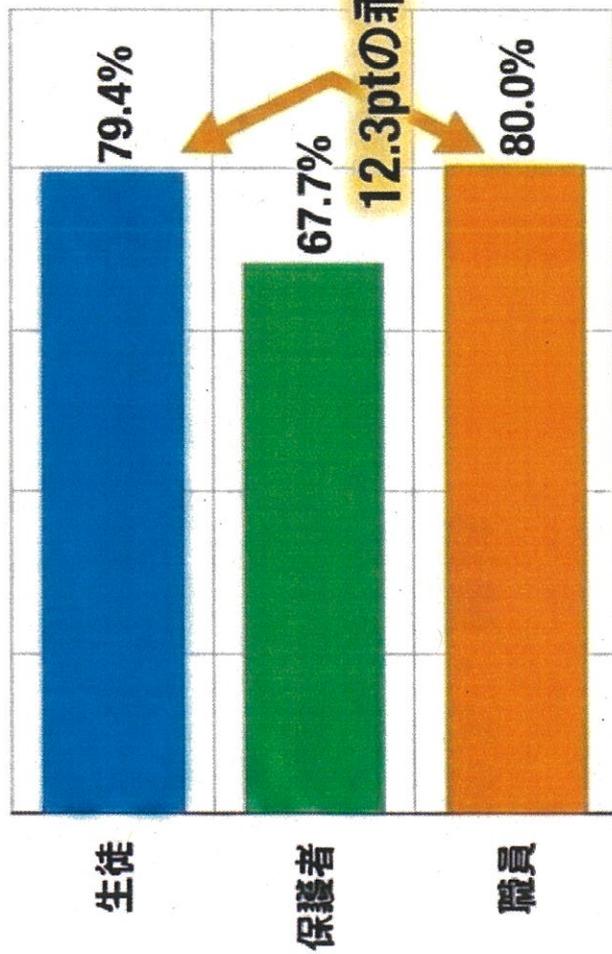


■ 生徒 ■ 保護者 ■ 職員

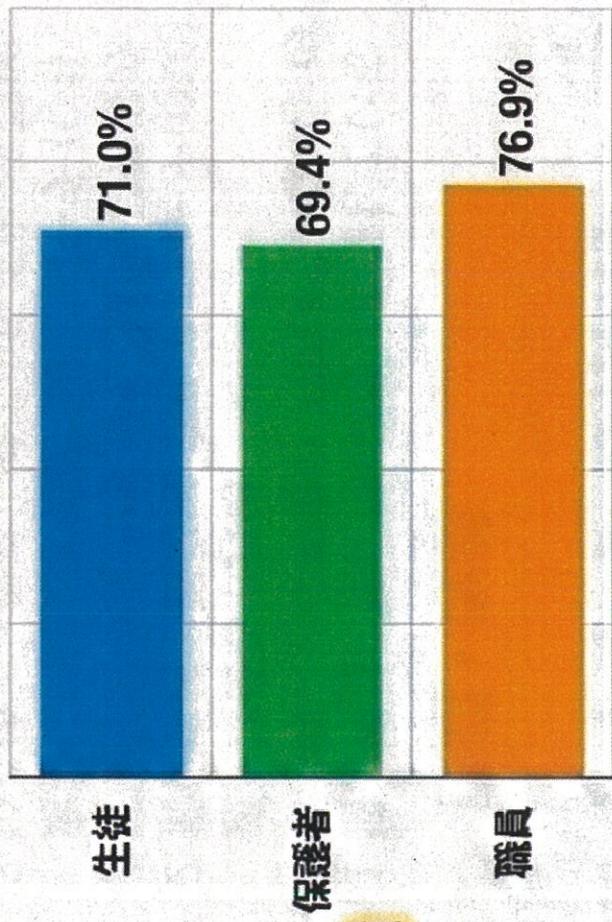
7. 環境と発信：家庭への情報伝達の課題

施設設備への評価は安定していますが、「情報発信」において職員と保護者の間に12.3ポイントの大きな乖離があります。家庭への「伝わりやすさ」の改善が求められます。

Q10. 学校の情報を積極的に家庭や地域に発信していますか？



Q11. 学びやすい環境を整えるため、施設整備に取り組んでいますか？



■ 生徒 ■ 保護者 ■ 職員

今後の展望：強みの維持とギャップの解消へ



強み・維持

1. 高い学校満足度: 生徒・保護者・職員の高い信頼関係 (Q1)
2. 進路・個別指導: 職員の手厚いサポート体制への評価 (Q8, Q14)
3. ICT・タブレット活用: 生徒主体の高い活用率 (Q6)



課題・改善

1. 情報発信の強化: 教員の「発信しているつもり」と保護者の「届いていない」の差を埋める (Q10)
2. 情報発信の強化: 共有化アプローチ (Q10)
2. 家庭学習の連携: 生徒の家庭学習習慣の定着に向けた具体的なアプローチ (Q4)
3. いじめ・トラブル対応の可視化: 保護者の不安を払拭するための、より透明性の高い対応と周知 (Q13)

「敬愛・互譲・協力」の精神のもと、学校・家庭・地域が認識を共有し、さらなる教育活動の充実を目指します。

